

# 令和八年度入学者選抜試験問題【一般】

## 〔現代の国語〕

(試験時間：六十分)

### 《注意事項》

1. 試験監督者の指示があるまで問題冊子は開かないでください。
2. 問題冊子及び解答用紙には、受験番号を記入する欄があります。それぞれに正しく記入してください。
3. 現代の国語（一般）の問題は、全部で34問あります。
4. 解答は、問題番号ごとに解答用紙の各欄に、番号を一つ記入してください。
5. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明及びページの落丁・乱丁、解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて試験監督者に知らせてください。
6. 試験終了後、全ての配布物を回収します。

問題冊子は左側に、解答用紙は右側に置き、試験監督者の合図があるまで席を立たないでください。

受験番号	
------	--

## 第1問 次の文章を読み、あとの設問に答えなさい。

みなさんは、こんなふうに言われるのを聞いたことがないでしょうか。

「多くの人は脳全体の10%しか使っていない」

かなり世間に流布<sup>I</sup>している言説らしく、私自身、コウエンカイ<sup>a</sup>などでよく「人は脳の神経細胞の10%くらいしか使っていないとは本当ですか？」などと質問をされます。

このような言説を聞いたことがある人は、自分にはまだ使っていない潜在能力があつて、成長のヨチ<sup>b</sup>がある期待するのかもしれませんが。

あるいは「自分は10%しか使わないで生きていけるとすると、アインシュタイン<sup>\*</sup>のような天才なら80%くらいは使っているのだろうな」などという、脳の使い方に対するイメージがあるのかもしれませんが。

しかしこの言説<sup>1</sup>には、科学的な根拠がありません。

実は、頭の良い人や熟練者ほど、課題をやるとき、限られた脳の回路を使い回し、省エネで働かせていることがわかっています。むしろ初心者の方が、活発に脳全体を働かせていて、つまり事実は、この言説とは全く逆なのです。

科学的に根拠がないということから説明しましょう。

「脳の10%しか使っていない」と言いますが、まず「使っている」という状態をどうテイギ<sup>c</sup>しているのか、また「10%」をどうやってケイソク<sup>d</sup>しているのか、全く明確ではありません。

脳にある全ての細胞は、それぞれ役割を担っていて、どれもしっかり働いています。

しかしあえて言うならば、脳にはさまざまな活動のモードがあるので、ある瞬間には休んでいることがあります。

各領域がどんなときにオンになり、どんなときにオフになるのか。仮に脳内に30の領域があるとすると、その30の領域がオンになるかオフになるかの組み合わせは、10億通り以上あることとなります。

その組み合わせの中には脳が試したことがない、未使用のモードがある、ということと言えるでしょう。

私自身<sup>II</sup>惑<sup>II</sup>するのですが、「脳は10%しか使われていない」という言説の源は、アメリカの心理学者、哲学者、思想家であるウィリアム・ジェームズ（1842～1910）によるものです。「意識の流れ」と呼ばれる思想を打ち立て、後に20世紀の文学にも決定的なエイキョウ<sup>e</sup>をもたらした巨人です。

そのジェームズが、人生のあるときに「脳は一部しか使われていない」という思想を持つにイタ<sup>f</sup>つたらしいのです。もつとも、ジェームズ自身は「10%」という具体的な数字をシユチョウ<sup>g</sup>していたわけではなく、そこは後世に付け加えられました。

こういう言説が広まった背景には、「自分の脳には潜在能力があるはずだ。それを活<sup>い</sup>かさなくては」という私たち現代人の強迫観念のようなものがあるのかもしれませんが。

<sup>3</sup> 初心者はあたふたして、熟練者よりも脳<sup>3</sup>のたくさん<sup>3</sup>の部位を活動させている、と述べました。では、その核

心に迫ってみましょう。

例えば、私たちが知らない外国語を聞いているとき、脳は理解しようとしてあわてふためいて、さまざまな部位を活性化させます。

一方、よく知っている言語を聞いているときは、脳活動の範囲は絞られ気味になる、という事実があるのです。

慣れ親しんだ言語では、その言語に対応するトクシユ部隊が脳の中にできていて、彼らが効率的に働くようになっていて、というイメージでしょうか。

頭が真っ白になって、何もわからなくなってしまった、というときは、脳はどこをどうドウインしたらいいのかわからず、なんとかしなければと一生ケンメイに、本当は必要のない部位まで使って、さまざまなことを脳の中で試している状態なのです。

例えば、私たちが突然スペイン語で話しかけられたら、「何を言っているのかわからない、どうしよう！」と、脳はいろいろな引き出しをあげてみるのですが、何も入っていないくて、パニックを起こしてしまう。

しかし日本語で話しかけると、引き出すべきところは決まっているので、「ああ、こうですね」と的確な対応がすぐにできるというわけです。

「あわてふためいてしまう」というのは、脳の働きからいうと、「新しいことをしようとして、とにもかくにも引き出しをあげている状態」ということになります。

X  
と言えるのです。

面白いことに、知能の高さとこの脳活動の絞り込みが、関係していることがわかっています。いわゆる「頭の良い」人は何をするときにも、脳の同じ回路を使い回していることが明らかになっています。

幼少期から、例えば英語と日本語の両方に親しんだ、熟練のバイリンガルの脳の中では、英語を話すときも日本語を話すときも、ほぼ同じ脳の回路が活動しています。同じ場所で両方の言語を効率的に処理することができるのです。

一方、もつと人生の後になってから英語を勉強しはじめた人は、日本語よりも英語を話すときのほうが、たくさんの脳部位が強く活動して苦勞している様子が見て取れます。

また<sup>4</sup>どんな科目も得意というような多才な人の脳を見てみると、英語を勉強するときも数学を勉強するときも、使われる脳の回路はほとんど同じだとわかっています。英語と数学は全く違う課題に見えますが、彼ら・彼女らの中では、ほとんど同じ回路で処理されています。すなわち、何でもできる人は、何にでも対応できる基本的な回路のようなものが頭にしっかり構築されているのです。

(茂木 健一郎「緊張を味方につける脳科学」より)

\*アインシュタイン：相対性理論を提唱した理論物理学者。

バイリンガル：二つの言語を状況に応じて自由に使える人。

問1 二重傍線部Ⅰ「流布」・Ⅱ「当惑」の意味として最も適当なものを次からそれぞれ一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は(1)・(2)。

- Ⅰ 流布
- (1) ① 噂うわさになっなっていること ② 広く行き渡ること
- ③ 話題に多おほくなること ④ 強く信じられること
- Ⅱ 当惑
- (2) ① 困まどって途方にくれること ② とても信じられないこと
- ③ 正誤せいごについて迷うこと ④ 絶望ぜつぼう的な思いになること

問2 傍線部 a～j と同じ漢字が用いられているものを、次からそれぞれ一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は(3)～(12)。

- a コウエンカイ (3) ① 近くのコウエンで遊ぶ。 ② 急にテンコウが悪化する。
- b ヨチ (4) ① 財産をゾウヨする。 ② 演奏のヨインに浸る。
- ③ ヨキせぬ出来事。 ④ ヨキンを銀行から引き出す。
- c テイギ (5) ① 彼はギリ堅い人間だ。 ② ギアンの説明をする。
- ③ ギシキをとり行う。 ④ 絵画にギコウをこらす。
- d ケイソク (6) ① 面積をソクリョウする。 ② 交通のキンソクを遵守する。
- ③ その場でのソクトウを避ける。 ④ ソクドを守り運転する。
- e エイキョウ (7) ① 久しぶりにキョウリへ帰る。 ② 思想にキョウメイする。
- ③ 古いボウエンキョウ。 ④ コウキョウキョクの指揮。
- f イタたった (8) ① 女優のシシツがある。 ② シゴク快適な温度だ。
- ③ フクシ施設を訪れる。 ④ 戦いのシユウを決する。
- g シュチョウ (9) ① ケンチョウに赴く。 ② セイチョウな空気を吸う。
- ③ 敷地をカクチョウする。 ④ 相手をチョウハツする。
- h トクシユ (10) ① 話がシユビ一貫している。 ② シユミの良い服を着る。
- ③ ヘンシユの植物を見つける。 ④ シユシヨウな態度を示す。
- i ドウイン (11) ① 会社のヤクインになる。 ② インシヨウの良い話し方。
- ③ ハイインを分析する。 ④ インシヨクは禁止される。
- j ケンメイ (12) ① ケンメイな判断をする。 ② 二つの職をケンムする。
- ③ 鉄棒でケンスイをする。 ④ ケンドウの師範になる。

問3 傍線部1「この言説」とあるが、どういう言説か。その説明として最も適当なものを次から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は(13)。

- ① 人間には潜在能力があり、さらに成長する部分を持っているという言説。
- ② 何かに慣れていない初心者は、脳全体を働かせているという言説。
- ③ 天才は思考するとき、脳の10%くらいの部分しか使わないという言説。
- ④ 多くの人間は、自分の脳の10%くらいの部分しか使っていないという言説。

問4 傍線部2「科学的に根拠がない」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを次から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は(14)。

- ① どのような基準で脳を「使っている」状態とするのが不明確であり、脳を「使っている」割合をどのようにして算出したのかもよくわからないから。
- ② 脳を「使っている」と言われるが、脳には働いていない細胞はなく、「使っていない」部分があるというのは明らかに誤っているから。
- ③ ウィリアム・ジェームズは哲学者であり、彼の思想は科学的な実験での研究成果ではなく、また人生のあるときに彼が思想を大きく変えたから。
- ④ 脳には無数の領域があり、領域の活動する組み合わせも無限なので、脳のどの部分を「使っている」かを科学者が解き明かすことは不可能だから。

問5 傍線部3「初心者はあたふたして、熟練者よりも脳のたくさんの部位を活動させている」とあるが、どのような状態か。その説明として最も適当なものを次から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は(15)。

- ① 慣れ親しんでいない言語で話しかけると、その言語に対応する脳の「引き出し」をあげることを何回もしてしまうので、同じ回路がたくさん動いている。
- ② 知らない言語で話しかけると、その言語に対応するための「引き出し」がどれかわからず、脳で本当に必要ではない部分まで使いながら、いろいろと試している。
- ③ 慣れ親しんでいない言語で話しかけると、脳のどの「引き出し」を使えばいいかを知っているにもかかわらず、パニックになってあらゆる回路を使っている。
- ④ 知らない言語で話しかけると、その言語に対応する脳の範囲が絞られてしまい、対応する「引き出し」も空っぽでパニックになっている。

問6 空欄Xにあてはまる内容として最も適当なものを次から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は(16)。

- ① 初心者も熟練者も、その場では頭を使っている
- ② 初心者のほうが熟練者よりも、その場では頭を使っている
- ③ 初心者も熟練者も、その場では頭を使っていない
- ④ 初心者のほうが熟練者よりも、その場では頭を使っていない

問7 傍線部4「どんな科目も得意というような多才な人の脳を見てみると」とあるが、筆者が「どんな科目

も得意というような多才な人」を例に挙げたのはなぜか。その理由として最も適当なものを次から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は(17)。

- ① 知能の高い人は言語で用いた勉強法を、他の脳の活動でも使っていることを示すため。
- ② 言語と数学の両方の学習で、得意な人は効率的な学習法を知っていることを示すため。
- ③ 言語以外の脳の活動でも、知能の高い人は脳の活動を絞って処理していることを示すため。
- ④ 脳の活動は、どのような人でも慣れていくことで基本的な回路ができることを示すため。

問8 本文に書かれている内容として最も適当なものを次から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は(18)。

- ① アインシュタインは、最初は脳の8割以上を働かせて研究をしたが、研究の熟練者になっていくと、それほど脳の回路を使い回さなくても研究の成果を上げるようになった。
- ② ウィリアム・ジェームズの言説が広がっていたのは、人間の脳には潜在能力があつて、さらに知的な能力を発揮できるはずだという強迫観念が現代人にあるからだと思われる。
- ③ 日本語で問いかけられると、日本人はどのような問いでも的確に対応できるが、それは問いの答えが脳のどこにあるのかを瞬時に探せるからである。
- ④ 英語と日本語のバイリンガルの場合、日本語よりも英語を話したり聞いたりするときのほうが、たくさんさんの脳部位の活動で苦勞しているのが実験で見取れる。

## 第2問 次の文章を読み、あとの設問に答えなさい。

人はパンのみにて生きるものにあらず、とはセイシヨ<sup>a</sup>の言葉で、信仰<sup>1</sup>精神世界の重要性を説いているわけだが、この言葉は宗教から離れても真理だと私は思っている。

パンに象徴される物質的な欲求対象の対極にあるものの代表は宗教的な信仰世界だが、芸術もそうである。それらは人間の精神的な欲求から生まれたのだし、そうしたいわゆる高尚なものだけでなく、芸能や娯楽という大衆<sup>1</sup>的な分野にいたるまで、人間が希求している非物質的な対象を具現化しているものはいくらでもある。人類はその最初期から<sup>b</sup>ドウクツに絵を描き、頼りになる神を想像<sup>1</sup>創造し、そして物語を語ったはずである。暇だったからそうした「フィクション」を楽しんだのではなく、生きるために必要だったからだ。人間とは、そういう生き物なのである。<sup>1</sup>パンのみでは生きられないのだ。

なぜ物質的欲求を満たすだけでは生きていけないのかといえば、自分たちが生きている現実世界は苛酷で、圧倒的な力を持ち、どうしたってかなわない、ということを理解する知恵をわれわれ人類が持ってしまったためである。

人間は知恵を持ったがゆえに、地震や津波や火山<sup>c</sup>フンカに見舞われたら死を覚悟しなくてはならないという「リアル」な現実が見えるため、不安になる。自分を殺そうとしている、むき出しの「リアル」、つまり「現実の真のありよう」を直視することに人間は耐えられない。A、「フィクション」というフィルターをかけて現実を見る。この世界は神により創られたのであり、創造主である神がわれわれにむ<sup>1</sup>ごいことをするはずがない、というように。

こうした安心できる「フィクション」なくして、人は生きられない。宗教や芸術をはじめ、芸能や文芸などはみな、生きるために必要な「フィクション」だ。科学的思考もまた、例外ではない。科学は事実を扱うが、その「事実」は人間の脳が理解できるものに変換されているのであって、「リアル」そのものではない。

芸術作品など何の役に立つのかと言う人がいる。かと思えば、歌舞音曲やエンターテインメント小説などは人を慰撫<sup>1</sup>するものであつて基本的には<sup>2</sup>なくともよいものだし、結局のところ暇つぶしの道具にすぎない、と考えている人もいる。経費削減と称して文化施設の廃止を推し進める自治体も増えてきた。有権者の多くが、「それでも生きていける」と漠然と感じているからだ。それでだれかが死ぬわけではない、と。

そのような人は、「人間はパンのみでは生きられない」という事実を深く考えたことがないか、理解できないのだ。あるいは、人ごとだと思っている。「フィクション」がなくなったら人間は、自分は、「生きていけない」、すなわち「死ぬ」のだ、ということ<sup>3</sup>を想像する能力に欠けている。自分もまた人間であるということも、忘れてる。実に、危ない。しかも、その危うさに気づいていない。

自分が危険な状態にあることに気づくのに役に立つのが想像力というものであって、それを鍛えるのが、これまた「フィクション」である。

「フィクション」は私たちに、体験したことのない世界を見せてくれる。宗教がそうだし、絵画でも娯楽小説でも、そこになが表現されているのかを理解するには一定の想像力を必要とする。この想像力は、現実世界

でなにが起きているのかを、**B** 自分の住んでいる土地のどこかで子どもたちが飢えているかもしれない、といったことを想像する力と、まったく同じである。「フィクション」で鍛えられる想像力は、現実を知る力になるのだ。**A**

パンではないもの、「フィクション」とは、私たち人間が、圧倒的な力を持つ「リアル」に対抗するための盾やボウゴフクのごとく、必要フカケツなものであり、同時に、希望でもある。**I**

東日本大震災のような大災害が起きたときなど、飢えた子どもに対して自分の仕事は無力だと感じる創作者は少なくない。だが、それは、違う。**ウ** 飢えて死にそうな子どもに必要なのは、パンと、希望という「フィクション」だ。**E** 創作者たちは、人を生かす仕事をしているのだ。決して無力ではない。

<sup>4</sup> フィクションの持つ力は、とても大きい。それに気づくと人生がより豊かになるので、これを機会にフィクションについてシサク<sup>f</sup>することをお勧めする。「フィクション」とは、現実を映す鏡でもある。そこに飢えた子どもやあなた自身が見えてくるなら、私もうれしい。

(神林 長平 『フィクションの力』より)

問1 傍線部 a～f と同じ漢字が用いられているものを、次からそれぞれ一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は (19)～(24)。

- |   |       |      |                |              |
|---|-------|------|----------------|--------------|
| a | セイシヨ  | (19) | ① 選手センセイをする。   | ② 敵地をセイフクする。 |
| b | ドウクツ  | (20) | ③ シンセイな建物。     | ④ 田舎にキセイする。  |
| c | フンカ   | (21) | ① 野球のデンドウ入り。   | ② ハンドウタイの工場。 |
| d | ボウゴフク | (22) | ③ ジドウ書を買う。     | ④ ドウサツ力がある。  |
| e | フカケツ  | (23) | ① 古代のフンボを調べる。  | ② 庭にあるフンスイ。  |
| f | シサク   | (24) | ③ 会議がフンキュウする。  | ④ フンドの表情をする。 |
|   |       |      | ① ゴカクの戦いとなる。   | ② ゴエイの兵隊が並ぶ。 |
|   |       |      | ③ ゴフクを商う。      | ④ ゴゴの休憩時間。   |
|   |       |      | ① 全員のケツソクが固い。  | ② ヒンケツを起こす。  |
|   |       |      | ③ ケツインを補充する。   | ④ タスウケツをとる。  |
|   |       |      | ① 本のサクインを見る。   | ② サクリヤクを巡らす。 |
|   |       |      | ③ サクネンの人数と比べる。 | ④ アッサク機を使う。  |

問2 二重傍線部Ⅰ「大衆的」・Ⅱ「慰撫する」の意味として最も適当なものを次からそれぞれ一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は(25)・(26)。

- I 大衆的 (25) ① 多くの人に受け入れられる ② 容易にはじめられる  
③ 様々な種類がある ④ どの場所でも共通の
- Ⅱ 慰撫する (26) ① 甘やかす ② 許す ③ 笑わせる ④ いたわる

問3 傍線部Ⅰ「パンのみでは生きられないのだ」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを次から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は(27)。

- ① 現実の世界は、人間の精神的な欲求のほうが強いので、物質的な欲求を抑えるしかないから。  
② 現実の世界は、神のむごい仕打ちや災害で耐えられないので、芸能で神を鎮めようとしたから。  
③ 人間は、現実の世界は厳しく人間の及ばない力を持っていることを知り、不安で耐えられないから。  
④ 人間は、死を覚悟するリアルな物質的世界を知り、創造主である神から知恵を授かるうとしたから。

問4 空欄A・Bにあてはまる語の組み合わせとして最も適当なものを次から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は(28)。

- ① A または B つまり ② A そこで B たとえば  
③ A しかし B そして ④ A なぜなら B あるいは

問5 傍線部2「なくてもよいもの」とあるが、「不要なもの」「役に立たないもの」を表すものとして最も適当なものを次から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は(29)。

- ① 夏炉冬扇 ② 換骨奪胎 ③ 我田引水 ④ 朝令暮改

問6 傍線部3「その」と品詞が同じものとして最も適当なものを次から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は(30)。また、その品詞名を一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は(31)。

- (30) ① ここで待っている。 ② とてもおいしくて感動した。  
③ 大きなりんごを食べる。 ④ 晴れやかな表情をする。
- (31) ① 名詞 ② 連体詞 ③ 形容動詞 ④ 副詞

問7 本文からは、次の□内の一文が抜けている。文中の□ア□エのどこに戻すのが適切か。後から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は(32)。

どちらが欠けても子どもの健康を取り戻すことはできない。

- ① □ア □イ □ウ □エ

問8 傍線部4「フィクションの持つ力は、とても大きい」とあるが、ここではどういうことを表していると考えられるか。その説明として最も適当なものを次から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は(33)。

- ① 「フィクション」は現実を空想の姿に変える力があり、世界を一変させるものであるということ。
- ② 「フィクション」は現実の世界を想像する力を鍛え、現実の不安に対抗するものであるということ。
- ③ 「フィクション」は現実の世界とは反対に位置し、現実の世界の虚偽を暴くものであるということ。
- ④ 「フィクション」は現実の世界を教示し、自分と世界との関係を変えるものであるということ。

問9 本文に書かれている内容として最も適当なものを次から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は(34)。

- ① 「人はパンのみにて生きるものにあらず」という言葉は、今では宗教上の意味から完全に離れて、一般の人々の生活上の指針となっている。
- ② 宗教や芸術が「フィクション」として扱われるのに対して、科学的思考は真理や事実を扱うので「リアル」そのものとして扱われている。
- ③ 自治体で文化施設を廃止しようとするのは、有権者がリアルな世界のみを目を向け「フィクション」の重要性を理解していないからである。
- ④ 体験したことのない世界を想像するには一定の想像力が必要であり、その力を持つのは創作者や芸術家の人々に限定される。